

DOJIN
R18
成人向け


18歳未満の
購入・閲覧禁止



新米警官と
田心春期少年の
扱い方




※この漫画はフィクションです。
実在の人物や団体などとは一切関係ありません。



では、これで
手続きは完了です。
落とし物、届いて
よかったですね！


いえいえ！
これが職務
ですから！

ありがとう
ございます！
お巡りさん！




ご迷惑をおかけ
しました。
でも良かった

もりやま だいち
守山 大地
新人警察官



「これ」
とても大事な
ものだったので・・・



あーい変わらず
お人好しな
こって・・・



せっかく警察官に
なったのに！
そんなんばっかり
ジャン！
カツコ悪い！



今日の午前中
ずっとあのヒトの
落とし物、探してた
だろ。

あきしま ゆういちろう
秋島 勇一郎
学生



そんなこと
いうんじゃないよ
勇一郎・・・

これも立派な
「警察官として」の
立派な仕事だ



これでオレが
役立てるなら
本望だし。

大きな事件が
起きないことが
一番だよ。





・・・
何やっつてんだ
また。



おーい守山
そろそろ巡回の
時間・・・

そらち ゆうじ
空知 悠児
守山の上司



あと、勇一郎君と
仲良くするのはいいが
程々にな!

守山、落とし物探しも
立派だがそれに
固執するなよ!

は、はい
もうそんな
時間なんですわね!
すいません!



・・・
じゃあ、オレ
そろそろ学校
行くわ。



気をつけます・・・



なら、昔みたく一緒に勉強しないか？



補習だよ！前の期末でやらかして……



勇一郎が小学生の頃、一緒に宿題やったりしてたる？



「また」……って昔からそんなに仲いいのか、お前達。



うるせー！いつまでも子供扱いすんなっ！



ほろん「弟」ねえ。



ええ、家族ぐるみでの付き合いなんです！

オレにとっては可愛い弟みたいなものですよ！



体を鍛えて
警察官になったのも
理由の一つなんです。

勇一郎はまだ学生だから、
オレが、頑張らないと。



だから、
オレは「兄のように」
勇一郎を守りたいって
約束したんです。



自分語り
してしまって
すいません。

・・・よし、
準備完了！

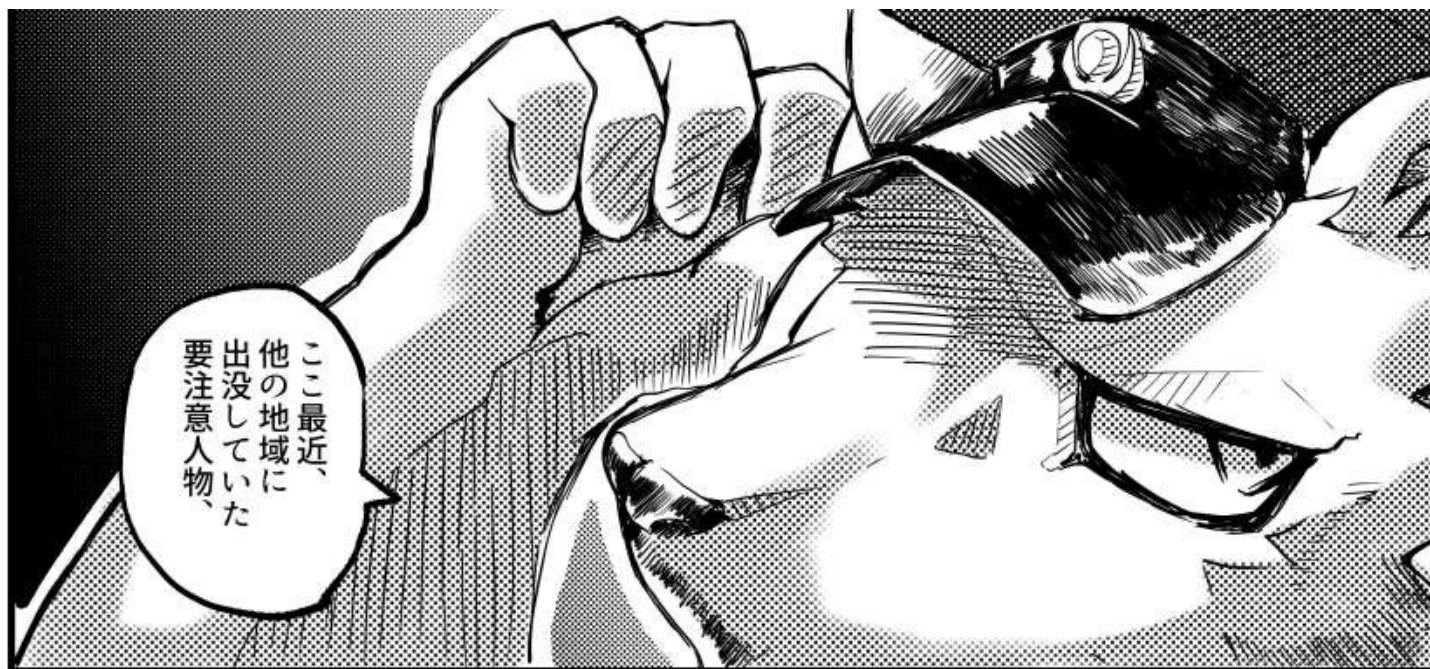
スチャ...

それじゃ、
街の巡回に
行ってきます
部長。



・・・なら
なおの事、この
ことは再確認
しとかなないと

お前も
聞いている
と思うが・・・



ここ最近、
他の地域に
出没していた
要注意人物、




そいつの目撃証言が
この近辺で
増えている……。




……
……
……
分かりました！


用心しておけよ
守山……。




・・・あれ
なんだ、ここ




おはよう
秋島勇一郎くん。




ほう、この状況で
泣き喚かないとは・・・



・・・なんで
オレの名前を。
それにどこなんだよ
ここ・・・



それに、そんな事は
些事です。



これからあなたは、
体の自由は効かず、
裸体を晒し、

そして・・・

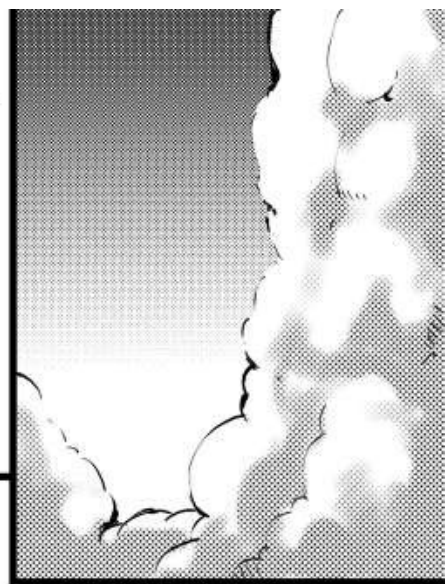


犯されて
もらうのですから……。

今日も暑……



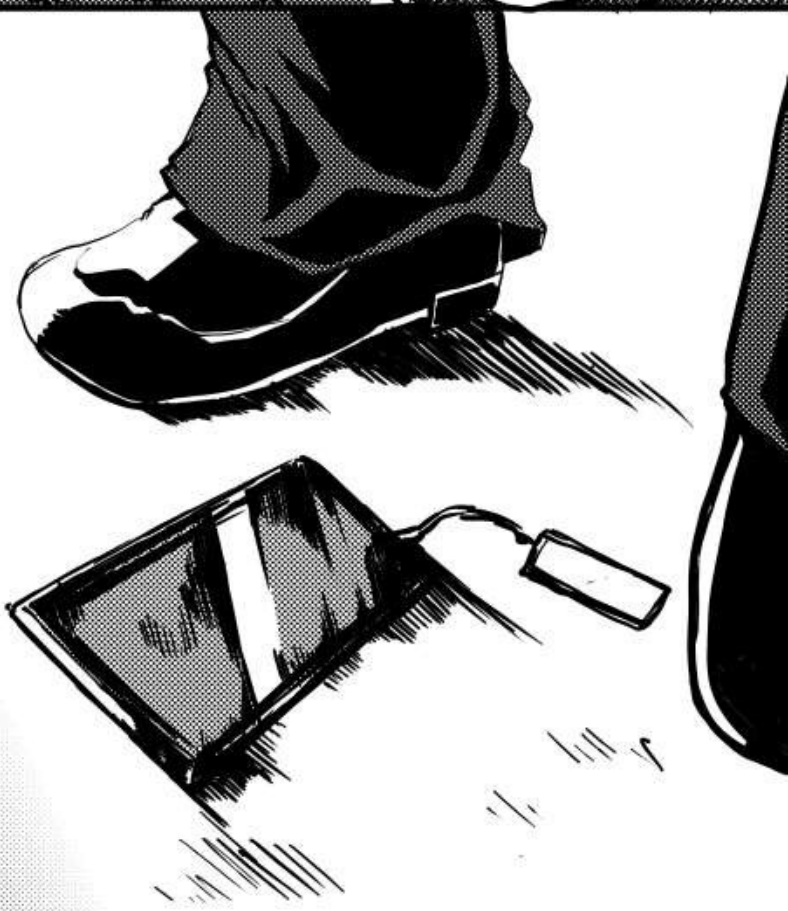
ふー。



補習は
大丈夫だったかな？

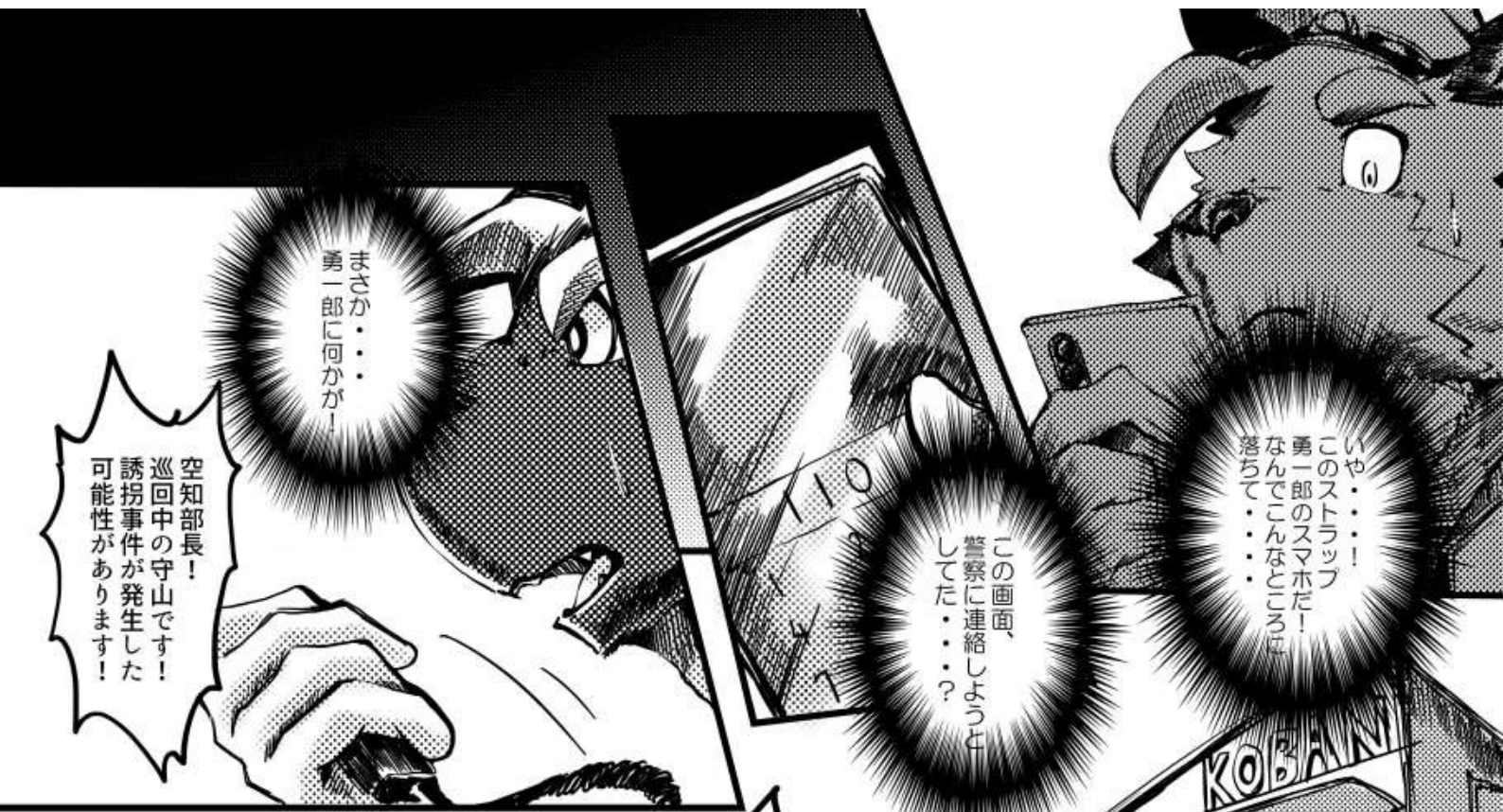


そういえば
ここは勇一郎の
学校の近く……



スマホ……
また落とし物か？

……



まさか・・・
勇一郎に何かが！

空知部長！
巡回中の守山です！
誘拐事件が発生した
可能性があります！

この画面、
警察に連絡しようとしてた・・・？

いや・・・！
このストラップ
勇一郎のスマホだ！
なんでこんなところへ
落ちて・・・



なんだと！
本当か守山！

まだ確定では
ないですが！
形跡が残っているため
引き続き追跡します！

・・・おい守山
焦るな、まずは
冷静に・・・て



あの馬鹿・・・

スマホから勇一郎の
匂いを迎れば
居場所を
探し出せるはず！

いや、
絶対に探し出す！

無事でいてくれ
勇一郎・・・！



さあて、
では始めましょうか。



言った通りの
意味ですよ？



何言ってるんだよ
お前……。



なす術なく、
その瑞々しい裸体を
徐々に、晒されていく……



この瞬間が、
やはり、一番気分を
昂揚させます。

ああ、



君は、今まででも
上位に入りますよ
勇一郎くん……。

……

待て……!!

それ以上、
勇一郎を傷つけるのを
やめてもらう!

警察だ!

大人しく
投降するんだ!

「勇一郎を」……
ほう、これはまた
面白い展開です。

正義のヒーロー
が登場し、囚われの
モノを助ける……

王道とはいえ、
興奮する展開です!

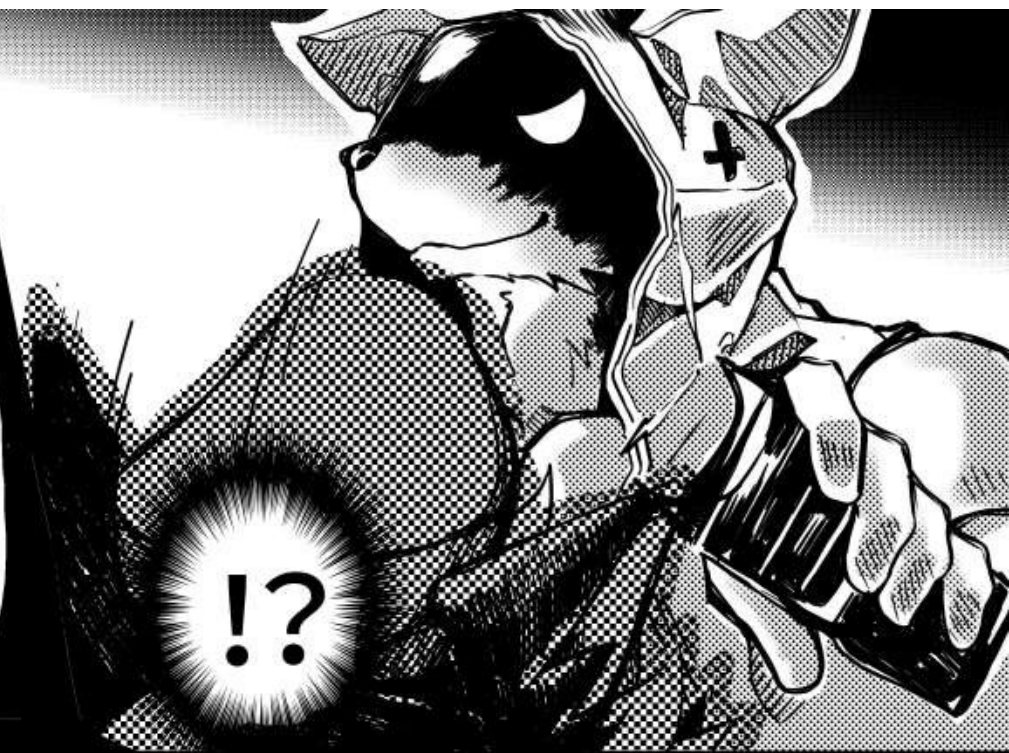
ふざけるな!







そして、そのヒーローが
力およばず
堕ちていく……



!?

それもまた、
王道で
興奮しますね



いやあ、思わぬ収穫
ですよ、現役の警察官を
こうして好き勝手できる……



カチャ
カチカチ



ああ、さすがです、
いい体をしていますね

この胸の弾力、
たまりません。



至極、簡単なことです。

何が目的なんだ、お前は……。

私は、遅い方の体を弄び、欲を発散したいだけ

気持ちよく
なりただけですよ



最初は、前々から目をつけていた勇一郎君を使おうと思ったのですが

グツッ

もっと、良いものが見れるようになります……。




グツッ

このような、
逞しい胸筋、腹筋、
余すことなく、
見ることなく、
中々ない機会ですしね


そうは思いませんか？

勇一郎くん……？




どうやら、あなたと
この警官は、
親しい間柄な様子。


そして、あなたが
ずっと彼を
凝視してたのも
気づいてましたよ？



安心してください、
私は中途半端な事は
しません、




論より証拠とは
言いますし……



「直接」……
見てもらいましょうか



ほら、ご覧なさい。



こんなに反応
してしまって……

そして、勇一郎くん、あなたも
また綺麗な身体です。
日々の部活の賜物、ですね。

堪りません。

ほら、あの警官に
見せつけて
あげましょう？

おや、せっかく
彼が全てを
晒したというのに……



私が手伝ってあげましょう

まあ、互いに、素直じゃない、と思いますか・・・。

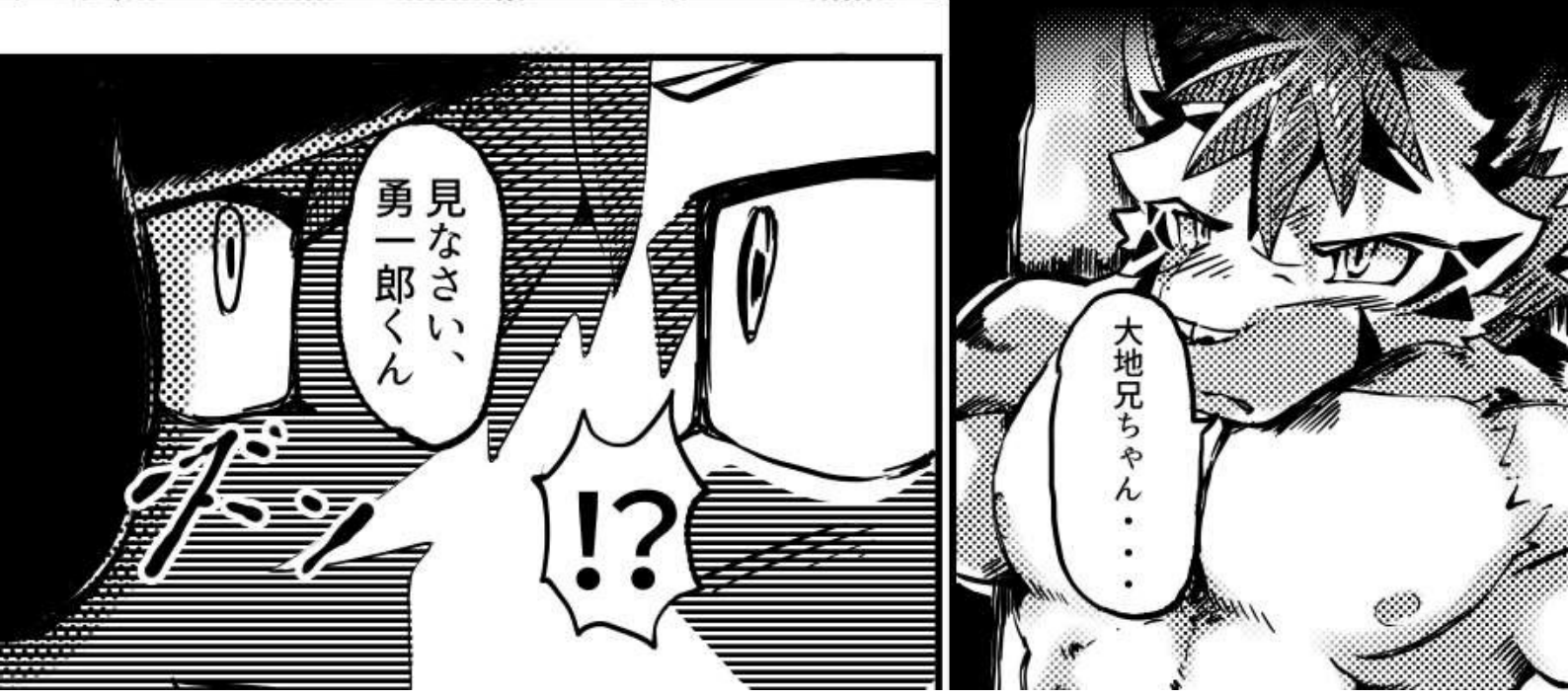
やれやれ

黙れ・・・！

ちゃんと見てあげなさい、勇一郎君がもう立派な雄だと・・・



まずは見せてもらいましょうかあなたの「雄」も・・・



見なさい、勇一郎くん

!?

大地兄ちゃん・・・

あなたの身体を見て
こんなに興奮している
ようですよ？
良かったですね。。。。

舐めてあげなさい、
勇一郎くん。

一人の雄として
気持ちよく
させてあげましょう？

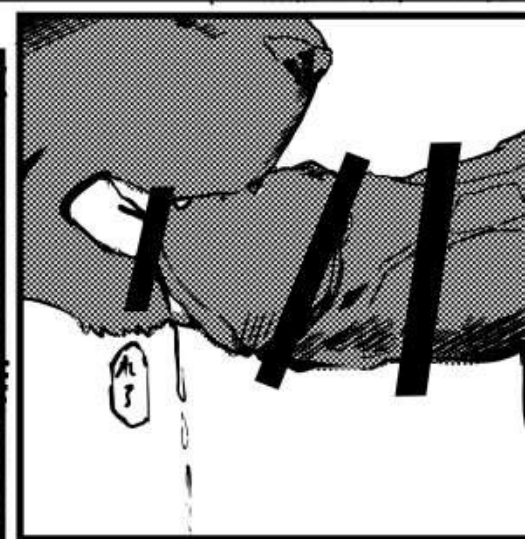


ごめんな
勇一郎……

大地兄ちゃん……



気持ち良いですか？
親しい子に
陰茎を舐められるのは。

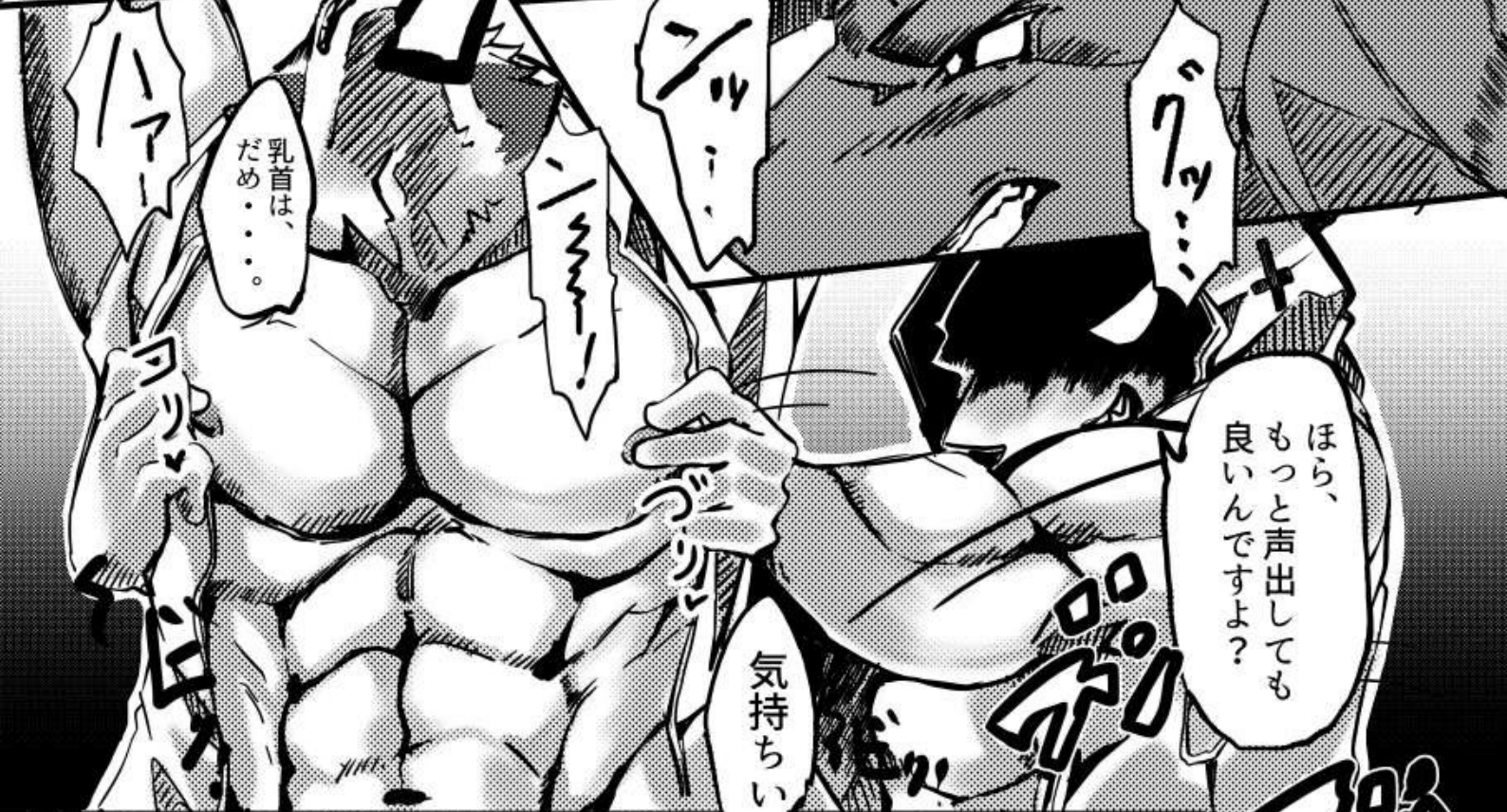


ありがとうございます。



私も、
もう我慢できません

あなたたちの体も
関係性も、全て、
私の欲の発散に
大貢献してくれましたよ。



乳首は、
だめ……。

気持ちい

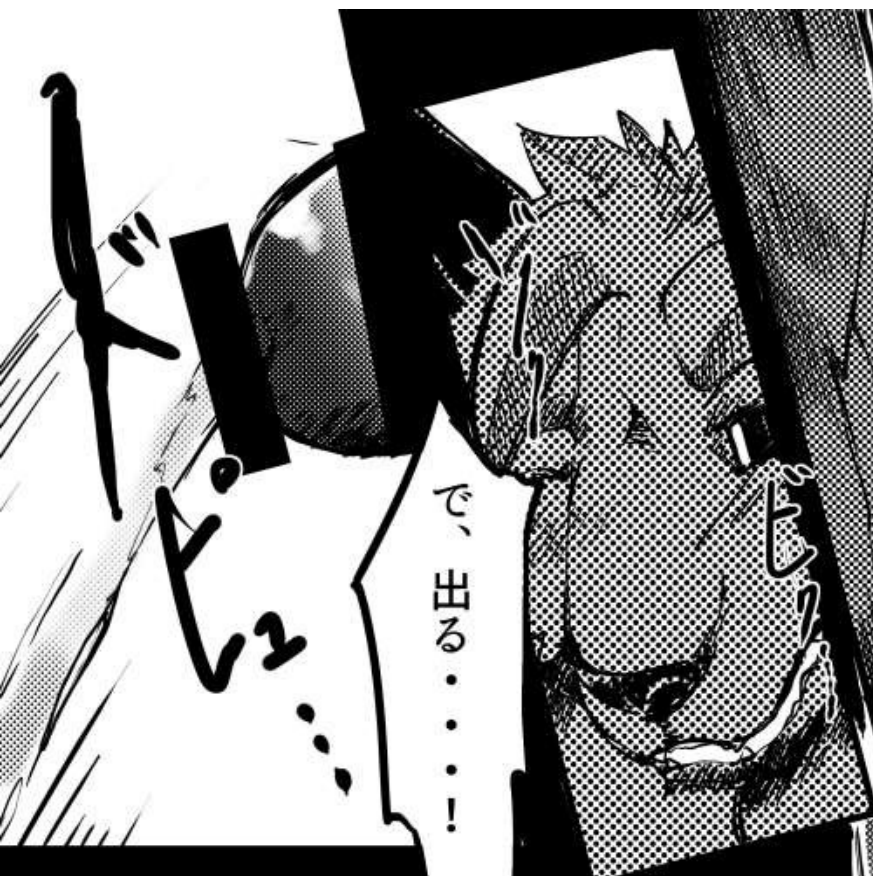
ほら、
もっと声出して
良いんですよ？



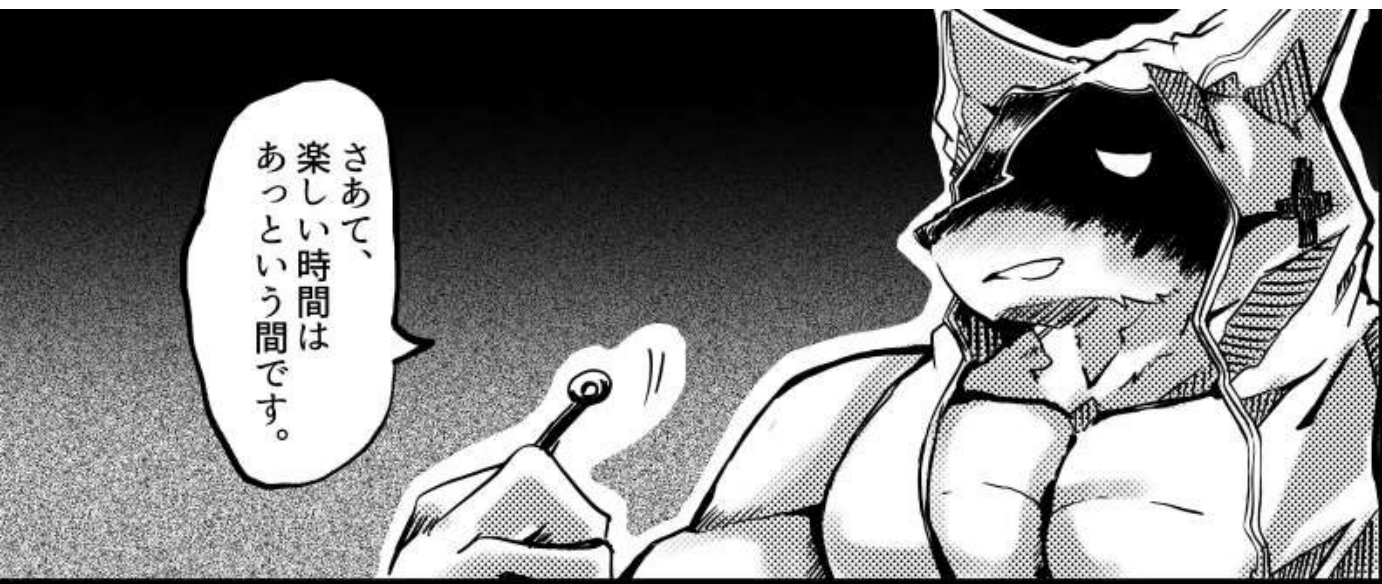
「大地兄ちゃん」？

さあ、勇一郎くん
しっかりと
受け止めさせて
あげてくださいね？


アッ
ウッ









さあて、
楽しい時間は
あつという間です。




さようなら。




カキヤ
では、お二人とも
後はどうぞ
ご自由に。



あなた達は過去最高に
私を昂らせてくれました
感謝いたします……



勇一郎……
気づかなかった。



昔の頃と比べて
こんなに体つきも
遅しくなっ
ていたことも……

勇一郎に対して、
こんなに
欲が芽生えてる
自分にも……

ごめん。

ごめん。

あの変態野郎は
ここまで予見
していたのか。
ここでオシが
とる行動すらも……

何が「ごめん」だよ
今更だろ。
大地兄ちゃん！

オレの体が
気になるなら
もっと見ろよ、
触れよ！

いつの間にか
縄は切れていて
オシ達は生まれた
ままの姿にされてた。

まあ、
もうそんなこと
どうでもいいか。

オレを一人の
雄として
見てくれよ。

さっきのやつより
もっと大地兄ちゃんを
気持ちよくさせてやる

勇一郎……

大地兄ちゃん、
今日の事、
オレ絶対忘れないから。
責任取れよ……。

それに今は警察官
としての大地兄ちゃん
じゃなくて、
オレに、もっと
欲情する姿を見せてよ。

勇一郎……
オレ、もう

いいよ、
大地兄ちゃん、
動いてよ



勇一郎……！

ここからオレが雄として、「オレを守る」とか言ってた大地兄ちゃんに、体も心も好きにされる、興奮に比べたら……。

本当に
どっでもいいや。

あとかま なのよ。

しまー(いち)です。
今回は字が綺麗です。頑張って書きました、嘘です
HG丸ゴシックM-PRO君のおかげです。
フォントの力ってすげー

今回、ちょっといつもとは違うテイストな話になりました。行為の際に三人いるというのも初めてです。初期構想では、最後の展開は全く異なり、最後に犯人は捕まるものの、勇一郎を酷い目に合わせてしまったことを謝る大地。でも「そんなことない」と勇一郎は語りかけ、『てか、今全裸じゃん、誰か来る前に早く服をどうにかしなきゃな』と若干、コミカルな感じに終わる予定でした。しかし、「な〜んか綺麗すぎる」と感じてしまい、「互いに欲を刺激されすぎて、歯止めが効かなくなる二人」という若干引きが入る終わりになりました。二人の行為の描写も読み手の皆様に委ねる形になったのも、全て描写するよりかは妄想の余地があった方が、くどくなく、より興奮できるかなと思った次第です、決して時間がなかったなんてことではない！

もし、この二人の続編を描くとしたら、しっかりと二人の絡みを描写する物語にしたいですね。ちょっと駆け足気味な展開になってしまったので

相変わらず私の性癖博覧会な本ですが、それが同人誌だ！自由なんだ！なんとかなれ！やーーーーー！
この本を手にとってくださり、本当にありがとうございます
同人誌には、もう一つ必要なものがある！
それは皆様がこの本を手にとってもらえる「あの瞬間」、
どんなに締め切りで疲弊していても、それでまた本を作ってしまうのです。そんな単純な生き物なのです私は。
だから、また本を作るでしょう、その時はこの博覧会に足をお運びくださいませ。

 24.10.01